

インタビュー

2000年の事業移管からこの3月でちょうど10年となります。移管以降も単一労働組合の道を選択したわが組合にとって、この10年の歩みはとても厳しい道のりでした。公務員労働者に対する意図的な世論操作による批判や組合活動に対する締め付け、退職不補充による定数削減、ありとあらゆる手法による合理化攻撃等、こういった厳しい情勢下に反撃するための体制整備は、わが組合にとって極めて重要な課題です。

昨年2009年9月29日の第78回定期大会以降、新書記長となった染書記長に当面する課題と決意について話していただきました。



【教宣部長】よろしくお願 会以降、東京清掃の書記長を先頭に中央執行部一丸といたします。早速ですが、公に就かれたわけですが、決なって奮闘する決意です。務員労働者とりわけ現業労働者の一端を聞かせてください。激励や協力をお願いします。

【書記長】よろしくお願 区移管からちょうど10年、4月からは11年目を迎えます。わが組合にとってもまだまだ試練が続くことは十分に予測できます。定期大



【書記長】2007年9月の第76回定期大会で『組織財政方針』が確認されました。組合活動への不当な締め付けを始めとする困難な情勢に対応するための方針として確立されたものです。機関会議のあり方、諮問機関や地連のあり方について方針として確立し、引き続き検討し結論を得る課題についても整理をしました。しかし、大会以降の点検や引き続きの議論が不十分だったという反省もあります。言い訳めいて聞かざるかもしれませんが、厳しい取組みが続き、なかなか余裕も無かったというのも正直なところではあります。

【書記長】2007年9月の第76回定期大会で『組織財政方針』が確認されました。組合活動への不当な締め付けを始めとする困難な情勢に対応するための方針として確立されたものです。機関会議のあり方、諮問機関や地連のあり方について方針として確立し、引き続き検討し結論を得る課題についても整理をしました。しかし、大会以降の点検や引き続きの議論が不十分だったという反省もあります。言い訳めいて聞かざるかもしれませんが、厳しい取組みが続き、なかなか余裕も無かったというのも正直なところではあります。

【書記長】1月28日、2月18日の中央執行委員会は、無給職免を取得して一日かけた機関運営を行いました。1月は午前中に学習会を設定して自治労中央本部から講師を招き、自治体に広がる非常勤職員の実態や課題について学習を深めました。また2月は公契約条例の運動をやってこられた、練馬区職労の副委員長を講師に招き、公契約条例の学習をしてみました。教宣部長にはテーマの設定や講師の招聘に苦労していただきました。引き続き、よろしくお願

【書記長】冒頭、政権交代のことを話しましたが、日本の労働組合にとっても大きな「転換のとき」です。東京清掃も世の中の「転換」に乗り遅れることなく、迅速な情報収集を基に適確な運動を提起できるように体制を整備していきたいと考えています。

【書記長】冒頭、政権交代のことを話しましたが、日本の労働組合にとっても大きな「転換のとき」です。東京清掃も世の中の「転換」に乗り遅れることなく、迅速な情報収集を基に適確な運動を提起できるように体制を整備していきたいと考えています。